広報ボランティアのページ

●担当ボランティア／日置雅夫・岩下茂子

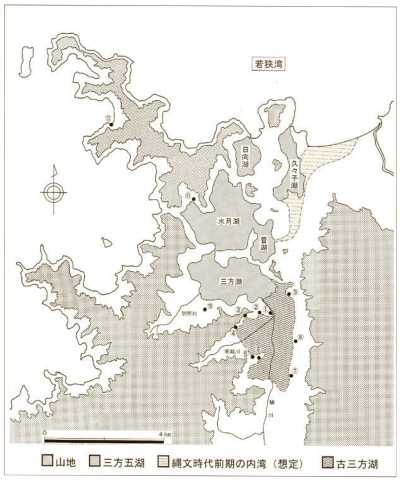
縄文のムラから今のムラへ

福井県の三方町縄文遺跡

三方町には、12ヶ所の縄文遺跡が確認されています。1万年以上前の草創期から晩期（およそ2300年前）までです。古三方湖のほとりを中心に9ヶ所、三方湖の南西岸や水月湖などに広く分布しています。長さ5m程の丸木舟が出土しており、この舟で漁労や他集落との交流を行っていたようです。

古三方湖にある鳥浜貝塚で発見された物には、漆塗り（うるしぬり）の土器、木製品、糸などがあり、赤色漆と黒漆が塗られていました。これは、若狭塗のルーツと考えられています。（参考:若狭三方縄文博物館常設展示図録）

また、エゴマ、シソ、ヒョウタン、アサ、ゴボウ、豆類などの栽培植物の種子が出土しています。縄文の人は、半農半漁の生活であり、日本の海岸沿いの200年前のムラと大きな違いがなかったのではないかと感じられます。（日置）



三方町内の縄文遺跡分布図（全12ヶ所）
平成14年度三方町縄文博物館秋季企画展図録ｐ21

能登半島地震の発生を受けて ボランティア活動について考える(その2)

（前号の続き）次に東日本大震災が発生しました。この時の災害ボランティア活動は、阪神淡路大震災で学んだことと、その後の災害ボランティアの啓発活動が少しずつ功を奏して、未曽有の大災害であったにも関わらず、阪神淡路大震災よりも迅速な活動を行うことができました。

そして今回の令和6年能登半島地震が発生しました。二つの大災害で得た教訓を元に、さらに災害ボランティアの意識も進み、本当に求められている必要な支援を迅速に汲み取り行動に移すことがさらに可能になってきたと感じています。かくいう私も所属する手話サークルを通じて現地の本当に必要としている物資の依頼を直接受けることで、知ることができ迅速に準備してまとめて届けてもらうことができました。

ところで、現地に行くこともできない、物資も準備することもできない多くの一般の方は復興のお手伝いをすることはできないのでしょうか?そんなことはありません。

その答えは地震発生直後に私と一緒に活動し、実際に能登にもお手伝いに行った方からいただきました。現地に行って直接ボランティア活動をすることも大切ですが、受け入れられる人数には限りがあります。

現地に行けなくとも、そこの地域の物産展などで被災地の商品を買うことによる経済支援も我々でもできる復興への応援であると現地を実際に見た方からのメッセージです。

私は現地で活動することができず、これを紙面にてお伝えすることしかできませんが、現地に行かなくてもいろんな方法で被災地を応援することが可能で、被災地を想い、日頃の行動を変えて被災地の物産を購入するという行動は復興を手助けする立派な災害ボランティアの一部と言えるのではないでしょうか?

私も今後も取り組んで行きたいと思います。（岩下）